

広島市植物公園におけるガイドボランティアの導入と活動

山本昌生・木原靖正

はじめに

近年介護や奉仕活動など各種のボランティア活動が盛んになってきており、博物館などでも展示物のガイドや監視などを行うボランティアの活動が行われてきている。

広島市植物公園では10年ほど前からボランティアの導入について検討されてきた。当園には昭和54年に結成された植物友の会という植物公園を活動の場としている組織があり、サクラソウの植え替えなどのボランティア活動を行っていた。会の中でボランティアに関するアンケートを取ったところ、高い割合で何らかのボランティア活動をしてみたいという意向があった。そこで、会員の有志を中心に会報「はなの輪」の発送作業や植物の管理などから始め、クラフト等の技術を持っている人には、会の中での講習会の講師として指導をしていただいた。また、平成11年には生涯活動の発表の場として全国生涯学習フェスティバル（まなびピア）が広島で開催され、植物公園の植物友の会として「フウの実のモビール作り」などの講習会を開き、積極的に参加するようになった。このように徐々にではあるが、ボランティア活動に関する下地ができあがってきた。

一方、当園には世界の植物約12,000品種を植栽展示しており、1年を通じて観賞することができる。植物には名前、原産地のラベルがあるものの、一般の方には、その植物の特徴や魅力などを知ることは難しい。この植物を紹介するため、年に数回、温室植物のガイドツアーや観察会を行っており、非常に好評であった。しかし、日常的に実施するには職員の負担が大きく、入園者に植物の魅力を知ってもらうためには、職員以外の解説者の導入が必要であった。そこで、入園者へのサービスとボランティア活動の場の提供としてガイドボランティアの導入を図ることとした。

他の植物園では、海外のニューヨーク植物園を始め、日本の東山植物園などで植物のガイドを行うガイドボランティアが活躍している例がある。

ガイドボランティアの導入

ガイドボランティアの導入に際して、友の会でのアンケートでは希望者は少なく、別な形で一般公募が必要であった。事前に先進事例である名古屋市の東山植物園、広島市の平和記念資料館のピースボランティア、広島県宮島町の宮島水族館の教育ボランティアの視察を行い、募集方法、養成講座、活動内容などを参考にした。園内でも事前に数回の協議を行い、平成12年10月1日号の市

民と市政を中心にガイドボランティアの一般公募を行った。広報は市の広報誌である市民と市政の他に地方紙の中国新聞や地域紙である西広島タイムス、ボランティアセンターのホームページでの募集を行い、同時に募集用のチラシを2000枚作成し、公民館や市内の文化施設などを対象に配布した。応募方法は往復ハガキによる応募とし、住所、氏名などの一般事項の他に選考する際の参考として、応募動機を記入してもらった。募集人数は実際のガイド方法や養成講座の効率性を考慮して当初30人としていたが、60人の応募があり、この熱意に応えるためにもできるだけ多くの人を採用することとして40人を選考した。選考方法は園内で選考委員会を作り、友の会の会員、ボランティア活動や自然観察活動を行っている人を優先し、続いて応募動機、活動可能な曜日により選考した。この後3人が辞退したが、友の会から3人応募があり、最終的には1期生として40人が集まった。内訳は20代から70代と年齢の幅は広く、大学生、主婦、教師、会社員、退職者などさまざまな職種の人が集まった。男女比は男性22人、女性18人であり、ほぼ同数だった。男性は退職した60代の人が、女性は子育てが一段落したと思われる40・50代の人が多かった（表1）。地域は広島市の他に廿日市など近郊が多かったが、中には府中市、山口県岩国市のように遠方の人もいた。

表1 ガイドボランティア1期生男女別年齢構成表
(平成13年3月の登録時)

| 年代 | 男性 | 女性 | 計 |
|-----|----|----|----|
| 20代 | 0 | 2 | 2 |
| 30代 | 3 | 2 | 5 |
| 40代 | 2 | 4 | 6 |
| 50代 | 4 | 7 | 11 |
| 60代 | 12 | 1 | 13 |
| 70代 | 1 | 2 | 3 |
| 計 | 22 | 18 | 40 |

養成講座

温室のガイド研修のため、養成講座を開催した（表2）。この講座用に温室ガイドテキストの作成ボランティアを友の会から募集し、ボランティア準備委員会として植物公園で定期的に活動を行い、A4版の延べ74ページにもわたるテキストを作成した。

第1回は園の歴史、組織、仕事内容などの解説の後、展示資料館の研究施設・教育施設の案内、屋外の案内を行った。第2～4回は各温室の担当職員を講師として温室の案内を実施した（写真1）。40人と人数が多かったため、20人ずつの2班に分けて研修を行った。みんな熱心で質問も多く、予定の時間を越えることもしばしばだった。最終回の5回目は全員温室のガイドの予行演習を行った。最後にボランティア活動の意思を確認し、認定証及び登録証を交付した。

表2 ガイドボランティア養成講座内容 (平成12~13年)

| 回数 | 実施日 | タイトル | 内容 | 時間 | 講師(担当係) |
|----|--------------|---------------------------------|---|--------------|-------------------------|
| 1 | 12/2 (土) | ボランティア活動と広島市植物公園の概要 | ボランティア活動の内容 導入に当たって これまでの経緯、他施設の状況 活動内容の説明 今後の計画 広島市植物公園の概要説明 歴史、概要、仕事の紹介 | 10時~ 12時 | 企画広報係 |
| | | | 食事等 食事後に資料作成室、種子貯蔵庫、図書室の案内 | 12時~ 13時 | 企画広報係 |
| | | 園内案内 温室も含めるが主に屋外の案内 班別に案内 | 大温室、熱帯スイレン温室、フクシア温室、展示温室、サボテン温室、ペゴニア温室 カスケード周辺(花壇、コンテナ)、花の進化園、ボタン園、バラ園、ハナショウブ園、日本庭園、茶室、樹林観察園、休憩展望塔、サクラ・ウメ園など | 13時~ 15時半 | 各担当者(第1栽培係、第2栽培係、企画広報係) |
| 2 | 12/16 (土) | 園内案内及び実習 (担当職員の案内とボランティアの実習) | ペゴニア温室+熱帯スイレン温室 | 10時~ 15時 | 企画広報係、第1栽培係 |
| 3 | 1/13 (土) | 〃 | 大温室 | 10時~ 15時 | 企画広報係、第1栽培係 |
| 4 | 2/24 (土) | 〃 | フクシア温室+サボテン温室+展示温室 | 10時~ 15時 | 企画広報係、第1栽培係 |
| 5 | 3/4 (日) | 案内実習 | 全部で各人の予行演習 | 10時~ 12時 | 企画広報係、第1栽培係 |
| | | 修了式・認定証授与 | 修了式、希望者を認定・登録 今後の活動計画と人員の割り振りについて | 13時~ | |



写真1 養成講座 (大温室の解説)



写真2 ペゴニア温室のガイド風景

ガイドボランティアの活動

ガイドボランティア活動は全くの無償である。ただし、登録証の提示により駐車料金、入園料は無料としている。これはガイドボランティアの活動を入園者へのサービス業務と位置づけ、準職員と見なしているからである。また、活動中の事故に対する保険は4月から翌年3月までの1年間、当園が経費を負担してかけている。ガイドする5つの温室は①ペゴニア温室、②大温室と熱帯スイレン温室、③フクシア温室とサボテン温室の3グループに分け、各グループに二人ずつ配置した。ガイドは土・日曜日の午後1時半から、それぞれ30~40分の2回の案内とし、午後3時20分には終わるようにした(写真2)。開始前の午後1時にはボランティアルーム(図書室を兼用)に集まり、担当者から注意事項や開花情報などを聞き、ガイド終了後は再びボランティアルームに集まり、気付きや入園者からの質問を記入するボランティア日誌を情報交換のために記入している。各温室への割り当て、ガイド日の割り当ては登録時に希望を提出してもらい、これをもとに当番を決定している。通常は月に1~2回の当番となっている。ガイドの内容は開始当初、みなほとんど同じ植物を同じように解説していたが、慣れるに従い、それぞれ工夫を凝らしたガイドを行うようになり、個性が出るようになってきた。大きな写真を用意し紙芝居風に行く人、パピルスで作った紙に触れさせる人やバナラビーンズの匂いをかかせる人、好きな植物を中心にガイドをする人などである。とくに香りのある植物は人気があり、甘酸っぱい香りのする球根ペゴニアの“イエロースウィーティ”の匂いをかかせるというサービスは人気が高かった。

ガイド時の服装は

ユニフォームの着用が望ましいが、予算の関係でユニフォームはなく、ガイドボランティアのマーク(図)を刺繍したワッペンをつけた帽子を



図 ガイドボランティアのマーク

着用している。ボランティアの中にはそれぞれ特技を持っている人が多く、このマークのデザインとワッペンの作成はボランティアが行った。

ガイドボランティアは平成13年3月24日から開始した。12月24日(月・祝)までに定期ガイドと不定期ガイドを合わせて約9,000人の案内を行った。当初土・日曜のみのガイドであったが、小学校、公民館、JA等の各種団体から案内の依頼があったため、平日のガイドも予約に

表3 定期ガイド実績表

| H13年/月 | 日数 | ペゴニア温室 | 大温室+熱帯スイレン温室 | フクシア温室+サボテン温室 | 計 | 1日平均 |
|--------|-----|--------|--------------|---------------|--------|-------|
| 3月分 | 3 | 80 | 70 | 52 | 202 | 67.3 |
| 4月分 | 8 | 352 | 264 | 263 | 879 | 109.9 |
| 5月分 | 7 | 356 | 196 | 259 | 811 | 115.9 |
| 6月分 | 10 | 280 | 341 | 221 | 842 | 84.2 |
| 7月分 | 9 | 211 | 117 | 138 | 466 | 51.7 |
| 8月分 | 8 | 162 | 171 | 252 | 585 | 73.1 |
| 9月分 | 10 | 291 | 295 | 322 | 908 | 90.8 |
| 10月分 | 8 | 267 | 126 | 299 | 692 | 86.5 |
| 11月分 | 8 | 435 | 281 | 330 | 1046 | 130.8 |
| 12月分 | 8 | 179 | 161 | 258 | 598 | 199 |
| 合計 | 79日 | 2,612人 | 2,022人 | 2,394人 | 7,028人 | 89人 |
| 1日平均 | | 33人 | 26人 | 30人 | - | - |

平成13年3月24日~12月23日

11月は3月に午前と午後ガイドしたため、回数は9回となる。

表4 不定期ガイド実績表

| 実施日 | 曜 | 団体名 | 人数 | 備考 |
|-------|---|---|-----|---------|
| 5/19 | 土 | クラーク高校 | 8 | |
| 5/26 | 土 | 吉島公民館 | 28 | |
| 6/6 | 水 | HIWC (Hiroshima International Women's Club) | 17 | 英語による案内 |
| 7/18 | 水 | 本郷社会福祉協議会 | 21 | |
| 8/30 | 木 | 老人大学 | 45 | |
| 8/30 | 木 | ジョイント事業 | 15 | |
| 9/2 | 日 | 植物公園植物公園友の会 山草部会 | 25 | |
| 9/5 | 水 | 湯来町農村環境改善センター | 28 | |
| 9/10 | 月 | 海田町老人福祉センター | 17 | |
| 9/27 | 木 | 島根県農林専門学校 | 10 | |
| 10/16 | 火 | 鈴が峰小学校2年生 | 62 | |
| 10/23 | 火 | 柳井小PTA | 19 | |
| 10/24 | 水 | 府中町山草部会 | 25 | |
| 11/8 | 木 | 佐伯区地域行政連絡調整会議 | 9 | |
| 11/12 | 月 | 坪井公民館 | 20 | |
| 11/13 | 火 | 草津小学校1年生 | 153 | |
| 11/17 | 土 | J A山口宇部産生支所草花部会 | 44 | |
| 11/18 | 日 | こんちゅう館友の会 | 47 | |
| 11/20 | 火 | 中区統計調査員 | 35 | |
| 11/28 | 水 | T S S文化教室 | 15 | |
| 12/6 | 木 | 大竹市学校教育理科部会 | 7 | 牧野展の案内 |
| 12/11 | 火 | 難聴者協会 | 19 | |
| | | | 669 | |

平成13年5月～12月末

より行っている(表3, 4, 5)。特に小中学校には、当園で行う自然体験学習のメニューの一つとして紹介しており、依頼も徐々に増えている。予約団体の方は熱心に聞かれる方が多く、ボランティアの方もやりがいがあると聞いている。また、ボランティアの中には、英語に堪能な方もいて、Hiroshima International Women's Clubという外国人の団体の案内を英語で行った。

温室のガイドとして募集したボランティアであったが、展示資料館で開催した企画展示の牧野富太郎と植物画展の展示解説をお願いしたところ、牧野博士の生涯や業績に興味を持つ5人の方が解説を行った(表5)。

入園者へのアンケート

ガイド実施直後の3月31日・4月1・14・15日、6ヶ月後の9月29・30日、10月6・7日にガイドを受けられた入園者を対象にアンケートを実施した。入園者からは好評で、時間や内容についてもちょうどよい・わかりやすいが約93%とほとんどの方が満足されていた。また、このガイドを事前に知っていた人は、実施直後は35人中4人だったが、実施約6ヶ月後には61人中6人であった。約9,000人ガイドをしたわりには、認知度はそれほど高

表6 ガイドボランティア研修一覧表

| 開催日 | 場所 | 研修内容(講師) | 参加者数 |
|----------|--------------|------------------------------|------|
| 13.2.6 | 植物公園大温室 | 春をよぶラン展とランの解説(ガイドボランティア 上田衛) | 9 |
| 13.2.17 | 植物公園栽培温室・苗圃 | 植物公園のバックヤードである栽培温室と苗圃の見学・解説 | 12 |
| 13.6.23 | 植物公園講堂 | ラン-不思議な植物~(栽培課 石田課長) | 18 |
| 13.7.20 | 広島平和記念資料館 | ピースボランティア見学、意見交換 | 13 |
| 13.8.25 | 植物公園講堂 | ワークショップ研修(実習)(管理課 山本課長補佐) | 23 |
| 13.9.8 | 植物公園熱帯スレイン温室 | オオオニバスの花の観察(夜間) | 18 |
| 13.10.6 | 植物公園熱帯スレイン温室 | オオオニバスの花の観察(夜間) | 5 |
| 13.10.27 | 植物公園講堂 | ペゴニア新品種の育成について(栽培課 島田技師) | 20 |
| 13.11.13 | 宮島水族館 | 磯の観察、水族館ガイド見学、意見交換 | 13 |
| 計 | | | 131 |

表5 牧野富太郎と植物画展定期解説ガイドボランティア実績

| 月/日 | 曜日 | 人数 | 月/日 | 曜日 | 人数 |
|-------|-----|----|-------|-----|----|
| 10/14 | 日 | 4 | 11/23 | 金・祝 | 11 |
| 10/21 | 日 | 10 | 11/25 | 日 | 12 |
| 10/28 | 日 | 1 | 12/2 | 日 | 18 |
| 11/3 | 土・祝 | 5 | 12/9 | 日 | 11 |
| 11/4 | 日 | 18 | 12/16 | 日 | 6 |
| 11/11 | 日 | 5 | 12/23 | 日 | 15 |
| 11/18 | 日 | 16 | 12/24 | 月・祝 | 20 |

合計 158人

くなかった。新聞やテレビで取り上げられることも多く、園独自のホームページやチラシ等で広報は行っているが、このガイドを目当てに来る人は少ないようである。来たときに思いがけずガイドがあり、受けてよかったと思う人が多かった。アンケートでは屋外の植物ガイドの希望も多いため、今後導入を進めていきたい。

例会と研修

活動開始から情報提供の場と親睦をかねて、2ヶ月に1度、土曜日または日曜日の午前10時半から12時に例会を開催している。主な内容は植物公園からの連絡事項、各種資料・情報の提供、議題に対しての協議、当番の割り当て、研修などである。研修は、知的好奇心が強く、向上心が高いボランティアに対して、自己啓発を進めるためにも植物公園が取り組んでいく必要がある。これまで園内だけの研修ではなく、すでにボランティアを導入している広島市平和記念資料館、宮島水族館の見学、同施設でのボランティア同士の意見交換などを行ってきた(表6、写真3)。今後、ボランティア導入の有無に関わらず、研修の場として視察を行いたい。

また、自己研修として日常的に園内の植物観察を各自行っており、中にはほぼ毎日のように来ている人もいる。

自主活動

当園では11月3日の開園記念日とこれに続く休日に秋の植物公園まつりとして各種の催しを行っている。ガイドボランティアの活動の一つとしてこれに参加することとした。期間中の温室ガイドは従来職員が行ってきたが、ガイドボランティアが行った。また、大温室前のテントにボランティアコーナーを作り、木の実と小枝のクラフ



写真4 園外研修(宮島水族館の教育ボランティアによる磯の観察)

表7 秋の植物公園まつり、ガイドボランティアコーナーの参加者結果

| 月/日 | 木の実と小枝のクラフト | 竹とんぼ | ススキのバッタ作り | ポプリとハーブの香り袋作り | 計 |
|------|-------------|------|-----------|---------------|------|
| 11/3 | 50人 | 25人 | 21人 | 57人 | 128人 |
| 11/4 | 56人 | — | 15人 | 35人 | 106人 |
| 合計 | 106人 | 25人 | 36人 | 92人 | 234人 |

ト作り、竹とんぼ作り、ススキのバッタ作り、ポプリとハーブの香り袋作りを入園者に指導した(表7、写真4)。これはボランティアが11月3日の実施までに、自主的に数回集まり、材料集めからテキスト作り、ボランティア同士の講習会までを行い、準備を進めた。その後、ガイドボランティア活動の企画運営を事務局とともに自主的に行うスタッフを募集し、6人が推薦により決定した。名称をリーダーズとし、平成13年12月5日に第一回のリーダーズ会議を行った。今後の活動計画の策定や会報であるガイドボランティア通信を発行(平成13年12月に第1号発行、今後原稿を募集し、不定期に発行予定)している。

現在温室のガイドを行っているが、今後サクラやバラ、ロックガーデン、花の進化園、樹林観察園など屋外の植物のガイドも予定している。その研修用のテキストをガイドボランティアと友の会の会員から募集し、約1年間かけて園内の植物を3班に分かれて、現地の調査及び担当職員との協力により作成しているところである。

自主活動は今後、当園のイベント等への協力を中心に行い、随時プロジェクトチームを作るなど内容に合わせた活動を継続していく。

今後の計画

第1期生が活動を開始して、約9ヶ月が経過した(平成13年12月末現在)。体調や家庭の事情などでガイドの継続が困難な方もおり、何人かが脱会の意思を表明したことから、ガイドが好評であり充実を図るため、2期生を養成することとした。2期生は1期生の選考にもれた方と1期生の推薦により集まった13名の研修を行っている。平成14年3月から1期生と同様に活動を行っていく。今後、平日についても定期ガイドの要望が高ければ、導入を検討したい。

また、屋外ガイドもテキストの作成と並行して、ガイドボランティア同士での案内を行い、実際にガイドする上でのコースや時間、内容などを検討していくこととしている。

ガイドの他に、植物に対して興味のある人には植物公園の標本、スライド等の資料整理や植物観察会等の講習補助などの教育的なボランティア活動への取り組みをお願いしたいと考えている。すでに海外との交換用の種子の調整などを行っており、今後体制が整えば依頼する予定である。

課題

・ガイド当日、仕事の都合等で急に欠席する人もおり、



写真4 11月3・4日の植物公園 秋の植物公園まつり、ガイドボランティアコーナー

各温室2人の確保ができない場合がある。今後人数確保のため、1日当たりの担当人数を増やすなどの検討が必要である。

・現在図書室をボランティアルームとしており、専用の部屋が確保できないでいる。図書室は職員が図書類の閲覧、スライド・植物標本・各種の資料の整理を行う部屋であり、現状では主に土・日曜だけの活動であるため、支障は少ないが今後自主活動が活発になることが予想されるため、ボランティア専用の部屋を確保することが必要である。

・ボランティアに対する予算は一般会計で計上しており、予算的には保険やテキストの印刷費、帽子代など必要最小限である。そのためユニフォームや備品のものの購入は困難である。今後、イベントでの作品販売などボランティア独自の収入の確保も行い、自主活動が円滑にできるよう対応したい。

・現在は土・日曜に入園者が多いことから、土・日曜にガイドを実施し、これに対応する形でガイドボランティアの人数を限定している。しかし、ガイドボランティアに応募したいという人が増えれば、これへの対応をどのようにするのか。

・今後、植物の管理ボランティアを含めて、さまざまなボランティア活動が入った場合、それぞれへの対応をどのようにしていくのか、例えばボランティアを一本化して、その中のグループのような形にするのが十分に論議されていない。

・ボランティアは自主活動であり、自己実現の場、生涯活動の場である。植物という共通の趣味・興味を持ち、社会に還元したいという思いにより集まった方々の気持ちが長年持続するようなプログラム(研修を含む)作りが必要。

参考資料

横山進 1998. 東山植物園におけるガイドボランティア活動について —導入の経緯と現況—: 日本植物園協会誌, Vol.32(20-33)

米で活躍 専門ボランティア、ニューヨーク植物園解説員を体験して: 朝日新聞記事, 1996.8.13